

看護学同窓会便り No. 10

平成26年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-7947
同窓会事務局 浦田

会長あいさつ

会長：下田 澄江

会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと思います。

毎年同窓会が近づくこの時期になると西小島町の近代西洋医学伝習所・養生所跡地である佐古小学校、大徳寺を訪れ、大楠の木や銀杏の木を眺めながら150年前の医療、看護を想像しながら散歩するのが習慣になりました。看護教育も明治36年長崎県立長崎病院附属看護婦養成所に始まり現在の長崎大学医学部保健学科看護学専攻に至るまで111年の長い歴史の変遷をこの大楠の木は見てきたのだと思うと感慨もひとしおです。

1861年医学伝習所・養生所には優秀な看病人(男性)がいたことがポンペ著「日本における五年間」で紹介されています。また1877年西南の役で傷病兵の施療にあたった看護長、看護夫も男性であり、その後の戦争に於いても男性の衛生兵の存在が記録に残されています。しかし明治に入り職業看護婦が誕生するころより看護は女性の職業として教育、法制度が整備されてきた経緯があります。他医療職では男性が多いのに看護だけは昔から女性が圧倒的に多かったというのも不思議な感じがしています。

ところでメディアで「女性が活躍する社会の実現」に関する記事が盛んに取り上げられている昨今ですが、看護の職場が圧倒的に女性社会であることを考えると果たして男性看護職から見た看護の職場はどう映っているのでしょうか。男性の採用比率や管理職比率、職場環境、ハラスメント等全く反対の立場で考えるとどうでしょうか。男性のライフスタイルやライフステージに合った働き方の支援、子育て・介護支援体制も当然求められていると思います。性差ではなくひとりひとりの人間性が尊重される男女共同参画社会の実現を目指して行くことが求められています。昨年の同窓会便りで紹介された男性看護職の記事をご覧いただいたことと思いますが、患者や他医療職の信頼も厚く優秀な男性看護師が活躍する時代がきたことに感動を覚えます。

さて原子爆弾が落とされてから69年になりますが、医学部記念講堂で毎年開催されている原爆犠牲者慰霊祭で今年は看護学同窓会員の椿山政子様「原爆当時の思い出」をお話いただきました。ご本人の承諾を戴き講演の一部を抜粋して同窓会便りで紹介させていただきました。貴重な体験談にあらためて平和の尊さをかみしめました。来年は被爆後70年になりますが、言葉に表せないほどつらい体験をされた中で私達後輩に伝えたいこと、戦後70年たって考える原爆への思いなどをお持ちの先輩方もまだまだ沢山いらっしゃると思いますので同窓会に声をお寄せいただければ幸いです。

今年度も11月23日に同窓会総会、懇親会を開催致しますので皆様お誘いあわせの上ご出席ください。同窓会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

同窓会員の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念しております。



平成25年度庶務報告

- 平成25年度入会者 78名
平成25年度入会者 81名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成25年11月23日
 - 理事会開催 3回
 - ホームページ管理
 - 慶弔
 - 3月25日 医学部保健学科卒業式 お祝い
：生花スタンド
 - 物故者へ弔電
 - 原爆慰霊祭に下田会長献花、生花寄贈
 - 看護学研究奨励賞運営
 - 同窓会だよりNo.9発行

同窓会員数

総数	3,673名
養成所	299名
厚生女学部	144名
看護学校	1,319名
医療短大	1,201名
保健学科	691名 (医療短大の卒業生7名を除く)
修士課程	19名 (看護学校、医療短大、保健学科の卒業生21名を除く)

平成26年9月30日現在

物故者ご氏名

お知らせいただいた方を掲載しております。
看護学校8回生 五島多津子様(旧姓 藤田)
平成26年3月25日



卒業生近況報告

保健学科8回生 吉松直樹(勤務先:国立がん研究センター中央病院)

大学卒業後、私は放射線治療について学びたいと思い東京の国立がん研究センター中央病院に就職し看護師として働いています。

入院されているすべての方ががんを患っていますが、その一人ひとりが多様な価値観や思い、希望、苦悩を抱えながら治療を行っています。治療は長期的になるものが多く、その時々に応じたサポートを行っていくことが必要になりますが、そのためには患者との信頼関係の構築や疾患の理解だけでなく、社会資源についての知識や他職種との連携も不可欠となってきます。幅広い医学的・看護的な知識、人間としての思いやりや温かさなど多くの事が求められる看護師という仕事に難しさ、大変さとやりがいの両面を感じています。

私は祖母が被爆者であるため、子どものころから放射線について考える機会がありました。放射線は悪いものという認識しかありませんでしたが、大学生の時の講義で放射線が治療に用いられていると知り、大きな驚きとともにもっと知りたいと思うようになりました。病棟でも放射線治療について学んでいますが、より専門的に学ぶためにも大学院修士課程への進学を考えています。その後は、博士課程に進み更に学びや研究を深めていくこと、再び看護師として病院に勤め知識を提供していくこと、海外の機関で学ぶことなど様々な進路を経ながら、放射線についての知識を普及していくことを思い描いています。様々な夢のためにも今の1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。



保健学専攻看護学講座5回生 吉田浩二(勤務先:福島県立医科大学災害医療総合学習センター)

「自分事」として捉えること～福島第一原子力発電所事故後の医療支援を経験して～

私は現在福島県にある福島県立医科大学災害医療総合学習センターで助手をしています。当センターは、東日本大震災後の平成24年に災害医療に対応できる医療人の育成を目的として設置され、医療者や学生に対し、放射線教育や災害医療教育を行っています。

私は、平成22年度に保健学専攻に新たに設置された放射線看護専門看護師養成コースに入学し、放射線基礎、放射線防護など様々なことを学びました。その在学中には、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故が起こったこともあり、震災直後から被災地医療支援として、福島県内で、原子力発電所からの傷病者搬送や緊急被ばく医療の再構築に関わりました。未曾有の災害と評され、国中が混乱している最中での支援で、戸惑いもありましたが、自分たちが出来ることを思案しながら支援を行ったことを覚えています。

福島県立医科大学や福島第一原子力発電所構内救急室を含めた福島での医療支援は、震災後の1年間で60日程度行いました。震災当初は、長崎の周りの方から、「福島はどうか」「福島の食べ物は大丈夫なのか」といった心配の声が多く聞かれていましたが、時間が経つにつれ、そういった福島への関心事が低くなってきたのを感じました。また、医療支援で被災地に赴いた私でさえ、医療支援の終了後には、長崎での日常を過ごす中で、放射線災害が頭から離れる、いわゆる風化を感じていました。長崎では、メディアや現地からの情報が入らない、入ったとしてもそれが正しいのかさえもわからないといった状況が風化を促進させていたと思います。私は、城山小学校出身で小さいころから被爆者や対応した医療者の講話を聞いて、決して忘れてはならないことだと感じ、育ちました。次は、私のような震災経験者が、この災害を風化させないために、語り部として、被災者の生の声を聞き、自分自身の目で福島の現状を捉え、それを自分の言葉で伝えることが医療人としての使命であると思っています。その結果として、少しでも多くの方が、「他人事」として感じていることを「自分事」として捉えることへと導けたらと思います。今日も、多くの方がこの災害を「自分事」として捉えるために、「伝えること」と「伝えること」を模索しながら、福島での教育を行っています。

最後になりますが、福島県は、震災以降、多くの支援を頂戴いたしました。この場をお借りして感謝申し上げます。どうぞこれからも温かい支援をよろしくお願い致します。



医療支援

保健学科、保健学専攻(修士課程)の報告

<保健学科看護学専攻9回生の進路>

平成26年3月、看護学専攻9回生80名が卒業し、県内外の保健医療機関に77が就職しました。長崎大学病院に22名、それ以外の長崎県内に7名、九州地区31名、関西地区9名、関東地区8名でした。職種は3名が保健師、助産師は4名、70名が看護師として採用されました。大学院等への進学は本学の修士課程助産師養成コース1名を含め2名でした。

<長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻>

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻(修士課程)看護学講座では平成26年3月に7回生12名が修了しました。そのうち助産師養成コースの第1回生7名は、高度医療を担う高い実践力をもった助産師をめざし、2年間で58単位という膨大な学習量でしたが、助産師のライセンスおよび大学院を修了という2つの大きな財産を自ら勝ち取りました。それぞれ大学病院等医療機関に就職しました。今後の活躍を期待したいと思います。

今後とも保健学科、大学院の教育・研究にご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



学びなおして出合った看護の喜び

～原爆平成26年度犠牲者慰霊祭における追想講話より～

養成所23期生 椿山政子

戦争も終わろうとしていた昭和20年8月9日長崎に原爆が投下されました。当時私は看護学校の生徒で16歳の時のことです。あの日の情景を思い出すと怖くて冷気を覚えます。運命の11時2分「ピカッ、ドン」で突然目を刺すような光と同時にあたり一面が真っ暗闇になりました。私は床にたたきつけられ、折り重なる天井や棚の下敷きになり、押しつぶされ一瞬呆然となり、自分が今何処で何をしていたのか分からなく、不気味な感におおわれました。息が苦しく胸に手を当て、脈をふれてみると生きているのは確かだが、目が何も見えない、人の気配もない、一体どうなったのか不安がこみ上げ大声で「婦長さん」と呼びました。「椿山さん、しっかりするのよ、急いでこっちにおいて、早く出なければ！」と、久松婦長さんの声が聞こえました。ほっとした間もなく窓際に炎が見えたので、夢中で外へ出ました。

「助けて、寒い、水を」と、叫んでいる人、目の前で命耐える人、2階3階から這い出して来る人、ガラス破片の傷、骨折、捻挫等、見る人見る人助けを求めて来る人ばかり、生死をさまよう人に水をやることもできず、人間らしいことをしてやれなかった。その悔しさ、つらさは生涯忘れることができません。永井隆先生は傷を押さえながら「火が回らないうちに安全な場所へ」と指示をされました。私は一台の担架を見つけ婦長さんと運びました。その内また火が回り残された人々の悲鳴を聞きながら、どうすることも出来ず、見る見るうちに一面火の海と広がるばかり。全く身のすくむ思いでした。無我夢中で飲まず食わずの時間がたつのも気づかず、一息した時は身も心もへとへとでした。

翌日行方不明の看護婦を探しに出かけました。5人の看護婦は何と運動場のそばで即死の有様で、見分けもつけられないほど変わり果てていました。着ていた衣類の焼け残りを目当てにいろいろと試みしました。結局確認の後防空壕中で焼くことになりました。5人の遺骨は空き缶に入れて名前を書き、その夜は教室でお通夜をし、いろいろと語り合いながら悲しい一夜を過ごしました。

その後永井先生を隊長とする第11医療隊は三山部落で救護活動をする事になりました。元気そうな人が日がたつにつれて、発熱、下痢、全身の倦怠感を訴え苦しみ死んで行く姿を見守りながら、原爆が如何に残酷なものであるかを知らされこわくなりました。

8月15日敗戦のことを知らされましたが、それをすぐに聞くことができませんでした。今迄張りつめていた気持がどっと力尽き皆泣き崩れました。

翌年久松婦長さんより「椿山さん、あなたはまだ卒業していないでしょう。学校へ戻っておいで！」と、お手紙をいただき4月よりまた大学病院へ行きました。そして学校卒業後3年間勉強の後母の病気で再び天草に帰り、助産婦、看護婦として病める人の苦しみを分かち合い、尊い命の誕生の喜びを感じながらお世話をさせていただきました。84歳になった今生きていてよかったことを実感し、家族や周りの人に支えられ幸せであることを感謝している毎日です。



平成26年度看護学研究奨励賞受賞者 ならびに次年度募集について

看護学研究奨励賞がスタートして今年で10年目となります。皆様のご支援ご協力の賜と感謝申し上げます。本年度も以下の3題が受賞となりました。総会では授賞式とともに、これまでに授賞された2題の研究発表を予定しています。ぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

- ①産婦に対するマタニティヨガの分娩時リラックス効果の検証
:松尾 佳奈(長崎大学医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座2年)
- ②妊娠期におけるストレスレッグス症候群のスクリーニングと周産期アウトカムへの影響
:山口ゆかり(長崎大学病院6階西病棟)
- ③ベトナム人看護師の日本の看護師国家試験対策に関する基礎的研究—看護師の属性と模擬試験得点との関連を中心に—
:平野 裕子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座 教授)

〈総会で発表予定の研究課題〉

- ①看護文化の継承:専門職アイデンティティと競争・災害・地域社会文化
:黒田裕美(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座)
- ②女子大学生の月経に影響を及ぼす関連要因と健康状態
:永井幸代(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻助産師養成コース修士課程2年)

☆次年度も以下の日程で募集しますのでご応募ください。

応募期限:平成27年6月20日～7月20日 詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:勝野久美子

(長崎北病院 Tel 095-886-8700

e-mail:kita_k_katsuno@shunkaikai.jp)



ホームページのご案内

長崎看護学同窓会のホームページを開設して皆さまにお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております。どうぞ一度ご覧になってください。

[<http://www.nagasaki-kango.org/>]

平成26年度看護学同窓会理事名簿

役職・氏名	卒業回	所属・連絡先
名誉会長 加藤 奈智子	看学2	
会長 下田 澄江	看学20	
副会長 浦田 秀子	看学21	医学部保健学科 ・819-7947
勝野 久美子 看護学研究奨励 担当	看学27	社会医療法人春回会長 崎北病院
書記 萩原 絹子 中尾 恵理子	看学28 医短3	看護部・819-7523 医学部保健学科 ・819-7946
会計 石田 紀代美 鳥越 絹代	看学32 医短1	5階東病棟・819-7393 看護部・819-7931
監査 土屋 滋子 田添 京子	看学13 看学22	
学外理事 平湯 路子 鶴嶋 葉子 竹田 茂子 荒木 宣代 橋村 洋子 山口 則子 久松 千鶴香 松藤 由布子	看学6 看学7 看学8 看学10 看学14 看学15 看学26 保健学 科6	長崎市医師会専門学校 長与町役場
学内理事 福田 昌恵 中村 千代美 森藤 香奈子 (看護学研究 奨励担当) 張川 恭子 藏本 友恵	看学34 看学36 医短10 医短10 保健学 科1	手術部・819-7424 11階西病棟・819- 医学部保健学科 SCU・819-7392 国際医療センター2階 ・819-7393



編集後記:この同窓会便りも数えること10回目の発行となりました。卒業生の動向や看護学奨励賞など毎年報告すべき事と、その年ごとのトピックスなどを織り交ぜ色々な事をご報告していきたいと考えております。今後とも看護学同窓会をよろしく願います。(医短10・張川恭子)